

会議名	令和7年度 第4回 藤沢市中学校給食検討委員会
日 時	2025年10月29日（水） 15：00～16：20
場 所	藤沢市役所分庁舎4階 4－2、3会議室
資 料	添付資料のとおり
議事	(1) 検討結果報告書の内容（案）について (2) 今後のスケジュールについて
事務局	1 開会 配布資料の確認
事務局	出席者数、委員会総数3分の2以上ですので、藤沢市中学校給食検討委員会要綱の第5条の規定に基づいて、本会議が成立していることをご報告させていただきます。 現時点では傍聴の方はいらっしゃいません。  なお、本日ご審議いただく議題につきましては、原則全て公開とさせていただき、議事録等の会議の開催結果について後日公開とさせていただきます。本日はこれに伴いまして、会議の状況を録音させていただいている。では、議題に移らせていただきます。 ここから先の進行につきまして、秋吉委員長にお願いしたいと思います。
事務局	2 議題 (1) 検討結果報告書の内容（案）について
委員長	事務局から報告書の内容について説明がございました。 少しお時間を取らなければ結構ですので、今の説明、また今回の検討結果報告書についてのご意見、ご質問がございましたら、ご発言いただけたらと思います。よろしくお願ひいたします。
近藤委員	皆さんと事務局に確認したい、ご意見を聞きたいところなのですが、13ページの結論の括弧一番の選択制か、全員制か、についての中身が食育の推進という理由で書かれています。これまでの議論の中では、9ページの「今の給食で何が改善されたら食べさせたいと思いますか」というアンケートのトップが、「全員が食べるようになったら」という回答が多いことからも、私はやはり全員で同じものを食べることの食育の価値であるとか、友達みんなが食べているから親しみをもって食べることができることも食育につながる理由だと思っています。「学んだことが特にない」という理由にプラスして、「全員が食べるようになったら」という回答の理由を加えるとともに、全員が食べるようになったらこの2番目の払込みにくさなどの方法も簡単になるのではないかとも思いました。
委員長	すごくいいご意見をおっしゃっていただけだと思います。結論付けのこの13ページに向けての全員給食の理由付けの中に、現実路線で考えて便利だから、というようなアンケートを吸い上げたり、国の無償化を見据えたりということの他に、教育的な観点からも食育が行き渡っていないという理由だけではなくて、全員が食べるようになったらそれだけ色々な意味で、共に食べ

	る時間をとることもできるということの意味も含まれるということを推測すると、アンケートの結果をもっと十分生かして、近藤先生がおっしゃるように、全員が食べるようになったら半数近くの人数も給食を食べるようになるということですね。そうすると煩雑な今の申し込み方法もおのずとすっきりした形になるだろうから、もしかしたら第 2 位の部分も生きてくるというご意見だったと思うので、ぜひそれも全員給食に導く根拠の中に加えていただけたらと思いますけれどいかがでしょうか。他の委員の方々も何かうなづいてくださってるようなので、お願ひします。
事務局	では、イメージの確認をさせていただきますが、13 ページの 1 段落目は食育という観点で、十分に食育が進められていないということ、2 段落目で全員が食べることはそれに対して重要というところで、段落としては 1 本筋が通って完結するような形になっているので、その次に足すような形で文章を作成し、1 度ご確認いただく流れでよろしいでしょうか。
委員長	近藤先生に確認されたいということですか？それとも皆さんにでしょうか？
事務局	一旦事務局の方で宿題ということで作成し、委員の皆さんにご確認いただくことでよろしいでしょうか。
東海林委員	14 ページの下の方にある括弧の 2 番のところとか気になっていたのですけれども、ランチボックス方式っていう言葉が出ていて、ただ他のところだとランチボックス形式となっていて、方式と形式という言葉が混在しているので、どう使い分けているのかというのが気になります。
委員長	そこを統一した方がすっきりするということですね。では統一するようにお願いします。
近藤委員	たまたま昨日のことなのですが、朝ご飯を食べててきた子がアナフィラキシーで真っ赤になり、登校次第救急搬送を行ったということがあったので少し私が過敏になっているのかもしれないのですが、16 ページの表を見て比較すると、金額的にも格安で、実現可能性が高いに丸がついてる右側の方式に目がいきます。ここにあるアレルギー対応に関して、対応可能だが対応アレルギーの品目に制限があるというのは、乳と卵と大豆等とか決められたものが対応可能、対応不可能ということをセンターの方から示されるのでしょうか。
事務局	まずアレルギー対応品目を決めなければいけないんです。アレルギー28 品目ぐらいありますのでその中で対応できるのは多分 2 品目ぐらいです。卵と乳と後はどうするかというのを決めて、その上で生徒によって多分項目が異なるところなので、あくまでもそこまでしか対応できませんということです。乳と卵のアレルギーまでしか対応できないから、例えば果物のアレルギーがあるという場合だとそもそも対応不可能というように、多分周知の段階で示すという形になります。
近藤委員	そうすると、注文する保護者がうちの子は乳のアレルギーがあるから、とか気を付けて注文することですか。
事務局	アレルギーのある生徒は最初に聞き取りをするので、聞き取った段階で除去食を作り出す予定です。

近藤委員	除去食を作ってくれるんですか。
事務局	はい。それが除去するのが乳とか卵しかできないので、制限があるというか、小学校ほど広くできない形にはなるかという想定でいる感じですね。それは新しく作る予定のセンターでしか作れないでそこで全校分のアレルギー食は作ろうと思っています。委託の方はアレルギー室がないので作ることができないので、新しく作る方でそこをカバーしようとしているという感じです。
近藤委員	本当に間違わずに該当の子の手元に除去食が届く方法であるとか、アレルギー対応を安全に行う中学校側の体制や管理も必要だと思います。
事務局	今だとランチボックスで普通に届く物の、色が違うであるとか、そういう整理で渡すのか、そこで1回、先生の方で見てもらうことが出てくるのか、そこはちょっとこれから話なのかなというところですけれども、運用をどうしていくかアレルギーはかなり課題があります。
近藤委員	懸念が残る点として今のアレルギー対応については、「課題である」というよりも「丁寧な整理が必要である」等の示し方がよいと思います。全員制になると、アレルギー対応の量も増えると思うので。
加瀬委員	今、デリバリーもアレルギー表を出していただいているので保護者がそれを見て注文する、しないということで保護者に責任があるので、職員側は本当に着けばいいだけなんですが、中学校職員で4時間目ギリギリまで授業をして、教室に行って、わさわさと始まる中で、それを全部その日の、アレルギーがあるかないかの判断というのは正直不可能かなと思うので、それについては先ほどおっしゃったように検討事項として確実に入れていただいた方が保護者は安心ではないかと思うんですよね。 ちょっと戻ってしまうんですけど7ページのところに、家庭で作った弁当を選択している生徒56.0%と、デリバリーが43.5%。この段階でお弁当の方が多いのはやっぱりアレルギーなりなんなりあるという心配もあると思うんですけども、これ以降は給食を選択したというところから、なぜ選択したかというと、お弁当を作る負担を減らしたいから、が80%です。これ多いですね。そうするともうそちらに流れるように結論が行っている感じがするので、お弁当を選んでいた人たちの気持ちというか、なぜ選んでいたのかというのも、もう少し丁寧に分析してもいいのかなと思います。食育というところで全員が同じものを食べて、食育について深めていくこうという流れはとてもいいと思うのですがやはりアレルギーも含めて、この半分ちょっとの人が給食を選ばずお弁当にという意味合いのところもちょっと丁寧に分析して対応できるような材料を残した方がいいという気がします
東海林委員	ほぼ同じような話になるかもしれないのですが、全員選択になったときにアレルギーの対応をどうするか、正直頭になかったのですけれども、アレルギーの対応の仕方をここで発したような感じですが、加瀬先生のおっしゃられたように、今の現場で急にお願いね、と言っても今のこの時間とタイムテーブルの中では絶対的に厳しいだろうというのは思うので。そうすると、自然的に日課表が変わらないといけない、というふうになると思うんですね。そうなったときに今まで日課表の観点からも、ちょっとこの形は難しい、これは難しいんだろうという話で、日課表を理由にそのところは厳しいと言っていたところでも、これはやる、というふうになるのという捉え方にもし

	なってしまうのであれば、何かここだけそれを認めるのか、みたいになってしまふうかと思うので、また、他のところとかも検討しないと、というふうになるのかなというのが気になったところだったのですけれども。ただ、アレルギーのことについて 14 ページ先のところに記載したりしてもう少しこれからもさらに確認していく、といったものもあった方がいいとは思います
加瀬委員	アレルギーの人は食べない、それを選ばない、というふうになっています。弁当を持参します。
東海林委員	授業が終わって荷物を職員室に置いて、自分の昼食を持って教室に上がって来る頃には、もう子供たちは給食やお弁当を持ってそれぞのところに移動したりし始めているので、全部待ってもらうことにするなら、やっぱりその時間を確保しないといけないと思うんです。やはりまだ現状のままだと難しいというか、考えてからの方がいいのかなというふうに思いますがね。
近藤委員	今は○○さんっていう個人ラベルのようなものがついてるんですか。
東海林委員	ついていないです。
加瀬委員	選択制なので、アレルギーの詳細献立表を見て、これは食べられないとなったらその日の予約はしないことになっています。
東海林委員	クラスに来るのは紙 1 枚で、今日頼んでいるのはこの人たちですというリストになっている。子供たちはそれを見ながら、私はリストに入っている、じやあ注文してあるね、と確認して取っていくということになっています。
近藤委員	逆に言えば全員制になるとアレルギーの子たちが買えるようになるというか、食べられるようになるという感覚なんですね。
金田委員	大盛と普通盛でもたまに間違っちゃったみたいなこともあると聞いて、中学生でもそういうことがあるんだなと思いました。だから万が一間違えて食べちゃったとかがあると、アレルギーだと怖いですね。
副田委員	小学校だと、除去食はお盆の色を変えるとかの対応をしています。中澤委員の方が詳しいと思いますが、みんなとは違う食器を使うという形でやっていますよね。中学校でも多分そういう形を取り入れるのかなと、聞きながら考えていました。 中学校現場も、周知は絶対必要ですが、過度な負担にならなければ可能なのではと思います。小学校と同じやり方を取り入れるのがいいのかどうかは、難しいところもあるかなと思います。小学校は学級担任制が今は基本で、中学校は教科担任制。担任はいるけれども、毎時間授業者が変わることを考えると小学校と同じアレルギー対応を持っていくのかは、考えないといけないところだと思います。 何らかの対応をしないと、取り違いのミスが起こってしまいアレルギーなのに食べてしまって、アナフィラキシー症状が発症となったら大変なことになってしまうので、しっかり考えなくてはいけない。確かに付帯意見として残しておいた方がいいかなと思いました。
委員長	その対応を、今ほとんどアレルギーの対応をしていない中学校に構築していくなければいけないと思うので、現在の小学校でのアレルギー対応や他の部

	<p>分も含めて、中学校でこの今回的方式で現実的に進める際に、心配される要因を思いつく限り洗い出して、それを考慮に入れなくてはいけない。考慮してシステムを考えいくということは、現実的な段階になればなるほど必要になってくると思うんです。アレルギー対応の問題を付帯事項として載せるということにしていただけたといいかなと思います。</p> <p>あと小学校の情報が中学校に行くようにするというようなことも考えていった方がいいですね。アレルギーの人たちを含めて、小学校でアレルギー情報を把握しているからそれをどう中学に伝えていくか。</p>
近藤委員	学年の途中で、突然アレルギーを発症する児童もいます。
委員長	そうですね。逆に状況が良くなる子もいるし、急に思春期近くなって発症する子もいます。しかも状態が良くなる可能性が低いような食品についてある日突然ということもあるので、小学校の情報をそのまま移行したからいいことでもない。そのあたりは専門家の先生のご意見もいただきながら、どういった形でやると事故に繋がらないか、今後の課題というか、付帯事項にプラスしていただけたといいかなと思います。そういう対応でいかがでしょうか。
事務局	付帯事項は3つですか。（1）給食運営の構築のところに含めますか。
委員長	給食運営の構築の中身なんだけれども、もっと浮き出るような形で表出ししていただくと目立つかなと思います。
事務局	アンケートでも、給食を選んでない理由として、数は少ないけれども、アレルギーを理由にしている回答者がいます。アレルギー対応の実施はそのような方の存在にも目を向けるという理由もあります。
近藤委員	また一ついいですか。13ページの（1）選択制か全員制かというところで、「全員制に移行すべきと考えます。」と言い切っていますが、私達の中では結構迷ったところかなと思います。全員制にするのであれば、例えば小盛りや大盛という選択肢もあるといいねと話題になりました。結論としては、全員制という方向性だと思いますが、良いと言い切るほどではなかったかなと、「望ましい」くらいが良いかと思います。
加瀬委員	中学校サイドからすると、何回も話を戻してきてるんですけど、なぜ選択制ではいけないのかという風に押し戻される。正直全員制にかける予算があるならば、職員を増やしてもらった方が学校というものがもっとうまく動く。食以前の問題だって、これを言ってしまっていいのかどうかあれなんですけど。食育の意味も十分わかるんだけども、「すべき」って私はちょっと思い切れないです。私というか中学校の今の現場で。流れ的にはしょうがないのかなとは思うんですけども、進んでそうしようという感じにはちょっとならないです。
東海林委員	もちろん食育として小学校の方から続けている、みんなで食べたものの栄養とか、そこに関わる文化のことなどを伝えられたらいいのは間違いないですし、本来はもっとあるべきなんだろうと思います。今のアレルギーもそうですし、それ以外にも議論してきたことも含めて、まだまだ話すべき、考えるべきところがある。自分も安易にこうすべきと言ってしまうのもどうかと思

	<p>うし、報告書に書けるのであれば、アレルギーと同様に、こういうところにまだ課題があるというのを残してもいいのかなだと思います。</p> <p>この報告書の記述に残すのか、別のところで引き継ぎとして渡すのかは、見当があると思うんですけれども、この部分にまだ課題があるとか、揉まないといけないところはしっかりと今後の検討する方々に引き継ぐ必要があると思います。</p>
委員長	<p>限られた時間の中で一応ここに着地したけれども、今後議論が必要な内容はあると報告書に明記するか、議論すべき内容を十分記載したものを別途に引き継ぐ、その方法はわからないけれども、ということですね。記載すべきとかそういうことじゃなくて、そういう記録はしっかりと残す。次の段階の委員会に、当委員会の課題へ議論すべきものが繋がって議論が継続することを期待するということですね。</p>
東海林委員	そうです。
委員長	<p>確かに給食経営管理の現実的な方向性はずいぶん出ているんですけども、中学校の食育の内容をどういうふうに広げていくかというところまではまだ議論もできていない。小学校の食育って言うと、いわゆる健康医療教育よりも食文化であるとか、地産地消の問題を広げたような形の教育が重きを置いているイメージで皆さんもいらっしゃると思うんですけども、中学に上がるとそういう部分ももちろん残しながら、30年後40年後の健康寿命の延伸を念頭に入れた健康栄養教育の方に移っていく食育を進めていただけたらいいと個人的に思っています。若い女性の痩せの問題の対応に、今回のことが中学校での食育が寄与できるような形に進んでいけたらいいなと思っています。そういった辺りを報告書に記載することが必要だとは思っていないんですけども、そういった方向性も少しメモしておいていただいて、次の段階に少し考えていただけて、要望として表に出していただけたらいいなとは思っています。</p>
加瀬委員	<p>給食を食育のきっかけとして、全員制で同じものを食べることは良いと思うのですけれど、中学校の場合、給食やお昼の時間だけで食育を担うというのはとても無理で。どちらかというと教科、家庭科とか技術とか社会科とか保健体育などに全部ひっくるめて行う。そのきっかけ作りとして、給食があつて、という形じゃないとなかなか進んでいかないと思います。実際に今も各教科でやっているので、教科と給食の食育が結びつくといいかなと思っています。</p>
委員長	<p>そうですね。そういったことも栄養教諭の先生を中心練り込んでいくらしい。教材の一つとして、給食を使いやくなるいいチャンスなので。小学校ではやることができている状況だと思うので、小学校は継続しつつ、中学生は知能レベルも上がって、五感で学ぶだけじゃなくて文字で学習していくとか情報だとか自分たちで話し合って学んでいくというように学習形態も変わっていくと思うので、より食育の教育の領域が発展するきっかけに、今回の給食全員制が起爆剤になればいいなと思います。</p> <p>大学の教員は理想的ですみません。現場のつらさを知らないわけではないですけれど。</p>
中澤委員	今現実に栄養教諭が関わるのは年に1回の朝食講話で、1年生から2年生に朝ご飯についてのアンケートを持ってお話をされるしかないんですけども、

	<p>昨日私、村岡中学校の2年生に向けて朝食講話をやってきたんですけど、アンケートを見るとすごい勉強になったと書いてあった。知らないことがわかった、自分がどのくらい食べなきやいけないか全くわからなかつたとか。必要栄養量の話とかもしているのでこんなに食べなければいけないと思わなかつたとか、朝ご飯食べないと太ってしまうかもしないというのは知らなかつたと、いうことをアンケートにいろいろ書いてくれている。あと、カフェインが入っている飲み物の話とかプロテインの話とかも一緒にしているのですけれど、そういうのも聞く機会がやっぱりないようです。給食があると、給食をもとにして地産地消の話もできるし、必要栄養量の話も朝食講話の中で、朝ご飯って3食ごとの必要なカロリーはこれで、1食分はこれだけで、給食をこんなに食べないと取れないんだよっていうのは、話をすると結構びっくりするんですね。おにぎり1個だと全然カロリー足りませんみたいな話をすると子供たちはすごいびっくりしていて、そういうのを栄養教諭が何回も行くことは多分できないんですけど、中学校にはその教科もあるし家庭科もあるし、あと委員会とかで取り上げてもらって、給食の栄養量が今の必要な栄養量だからこのくらい食べなければいけないんだよ。というような話をきっかけにして広げてもらえると、食育が広がっていくのかなと思いますし、毎日の給食プラス、委員会とか教科での食育に広げるきっかけになってくれると毎日の給食が教材になるので、これから全員制になればみんなが食べている給食が教材となって食育が広がっていくのはすごい大事なことだと思います。</p> <p>これから健康で長く生きるためにとても大事なことだし、自分のことを知るというのも大事なことだと思うので、全員制になって食育がどんどん中学校で広げられるというのは大切なことだと思います。</p>
金田委員	<p>うちの息子は今中学生で、家庭科の授業やテストでも、この栄養を満たすための献立はどれですかとか選択するんですけど、例えば塩分や味の濃さなど実際に食べてみないとわからない。自分たちの体に大切な味の濃さなどを、勉強プラス実際に食べて味を知るというのはすごく大事なことかなと思います。</p> <p>そもそもなんですけど、当委員会の結論ですが、全員制かそうじやないかを結論付けなきやいけないんでしょうか。どこまではつきり書くべきものなのか、食育という観点からは全員制だけど、まだまだ課題があるという感じで書いてもらった方がいいんじゃないかなと思います。</p>
事務局	<p>そこは特に言つてはいけない部分ではなく、皆さんの総意で結論としては出ませんでしたというように、はつきりとした結論には至らなかつた、というのは前回の導入時でもありましたので、そういう結論でもいいです。例えば全員制か選択制かについては結論出なかつたけれども、こちらが望ましいけれど、課題はあるみたいな風には書けます。</p>
金田委員	わかりました、ありがとうございます。
委員長	ということで、5月から始まった委員会ですけれども、ここでこのような意見が出たというのを、ご提示するということですね。
事務局	はい、それを受け教育委員会の方で最終的な結論を出していきます。
東海林委員	別の視点の話になってしまいますが、5ページのところで、給食時間の現状というところ4行目のところで「昼食時間を過ぎて昼休みに入つても食事

	<p>を続けて良いことにはなっているものの」とあって、実際は落ち着いて食事をすることは難しいという声もありますというのがあるのですが、自分が学校現場でお昼休みにご飯を食べててる生徒というのは、ほぼほぼ見たことがないんですね。</p> <p>あるとしたら例えば、ついこの前は生徒会の選挙があったので、生徒会の選挙のためにご飯が食べられなくて、別室で食べているというようなことは見たりすることはあるんですけども、何か教室でみんながワイワイやってる中で1人お昼ご飯を昼休みに食べてます、みたいな現場はほぼほぼ見たことがないんですね。</p> <p>小学校の場はあるんですかねこういうのは、ないですかね。</p> <p>自分自身小学校はお昼休みだけど、まだちょっと食べてなさい、みたいなのがあるのかと思っていたので、そこと比較も含めてこれがはあるのかなと思ったんですけど、そうでないならば、元々この記述がなくても良いのではないかなと思ったんですね。お昼はお昼だから昼食時間とはまた別という形になりますし。</p> <p>前後の部分も多少変えたりしなければならないというのもあるかなとは思うんですけど、元々あまりない。中学校としてもレアなケースであれば、載せなくても良いかと思ったんですけども。</p>
加瀬委員	<p>これよく1年生が、そもそも15分では食べきれない、というのももちろんのこと、保護者の方から連絡をいただいた際に昼休みも食べていて構いませんので、というお答えの仕方をするのですけれども、中学生ってだんだん慣れてきて、早く遊びたいから早く食べちゃう、周りに食べている子もいないし給食の回収も早いのでそこまで食べてる人もいないだろう、ということで何となくこれで切れてしまうわけで、何とも言えないですよね。</p> <p>ただ、そもそも15分って人間のお昼としてどうなんだろうというのもありますよね。世の中でも45分は取るだろうというところで、保護者の方にはいいですよって言っているという意味合いのここかなと思います。</p>
東海林委員	本当に短いのは重々承知だし今回のこの全体でも我々結構出たりしてたので、そこは全然押していくっていい話だろうなとは思うんですけど。
金田委員	<p>15分が20分になるだけでもちょっと印象が違うかなと思います。</p> <p>私は今幼稚園で働いていて、一応お昼は、小学校の給食は大体20分ぐらいだから、みたいな感じで大体20分でお弁当を食べ終わるよう、それに向けて声かけとかをしているんです。なんとなく食事時間は、20分ぐらいはあつたらいいな、なんて印象が親としてもあって、そこのあたりが中学校で今後どのように検討してちょっと変えていくのか。難しいですね、でも。</p>
加瀬委員	昼休みを削ると子供たちは不満でしょうけれど。
金田委員	<p>そうなんですよね。早く食べる子たちはもう外に出て遊びたいとかいろいろあるでしょうし。</p> <p>5分ぐらいは普通に食べたい子は食べてもいいような風潮になっていくと良いですよね。</p>
加瀬委員	そうですね。別にやめなさいということではないんですよね。
近藤委員	中学校は、みんなで「ごちそうさま」をしているのですか。

東海林委員	<p>一旦全員でいただきます、一旦全員でごちそうさま、というのが今のところよく見ますね。</p> <p>自分の学校の場合は、4 時間目が終わってから給食までの間は、一応手洗いとか移動も全部含めて、10 分取っているんですけど、結構子供たちが早く準備し始めてくれて、5 分～6 分ぐらい経ったころには「いただきます」を始められるようにもなってきていて、そうすると 15 分だけど、それにプラス 4 分とか、もうちょっとあるみたいな感じでやっていて、ごちそうさまをして 1、2 分間ぐらいちょっと最後食べている子がいるかなぐらいの感じです。今 の 2 年生ですけれど現状そうですね。15 分ギリギリなんだろうなという感じはします。</p>
委員長	そうすると、昼食時間の検討も付帯事項になりますかね。
金田委員	そこは多分例年、食べる時間が短いというのはずっとアンケートには出てるところなのかと思います。
加瀬委員	時間だけ見たら、親としては何だと思いますよね。学校の流れの中にいると慣れてくるものなのだが、で済んでしまうのですけれども、やっぱり時程だけ見るとやはり心配で、ちょっと短いかなと思いますよね。
金田委員	早食いはいけないと教えてるのに早く食べなさいというのも、でも量は食べて欲しいしとか、自分の中ではどう子供に伝えていいかなと悩むところもあります。
委員長	<p>25 分から 20 分などそういうことも今後本当に現実的なことを考えると、いろいろ学校現場の実情を踏まえて、各学校によって事情も少し変わってくるということももしかしたらあるのかもしれないですし、まだまだ考えていかなければいけない内容が十分あるここまでのことの報告書ということになるので、少しでも気になる部分で大きく付帯事項であげたいことは、給食運営の構築なんだけれども、特にアレルギーのことはしっかりと押させておかなければいけないですし、それから給食時間の確保ですかね。</p> <p>付帯事項があまり多いと目立たなくなってしまうことも気になるので、今後はこういった内容も引き継いで検討し続けないといけないというものがあったらそれはしっかりと見えないメモを引き継ぐというのを事務局にはぜひ忘れずにお願いしたいところです。</p> <p>今日のこの段階ではなくても、もう一度読んだらこれもだな、という気になるところが出てきましたらお知らせいただければと思います。</p> <p>どこかのタイミングで区切った形で報告書を提出しなくてはいけないと思うので、13 ページの「移行すべき」という辺りも、もう少し柔らかい表現に変えるなど修正し、区切りのところまでではっきりしたことを書かせていただきます。</p> <p>結論のところはすべきということじゃない表現になってましたよね。望ましいと考えますとなっていますので、この結論に合うような形で気になる文章の動詞の最後のところがないかどうかチェックを入れて全部整った形で最後の確認をしていただけだと。</p> <p>どうしても整合性がずれてしまう部分があると思うので、最後のところで統一して、さきほど東海林先生がおっしゃった用語の統一のことも含めて説明の最後の動詞の部分のニュアンスの統一性というのは、最終段階で確認していただけだと思います。</p> <p>いかがでしょうか。そろそろまとめていってもよろしいでしょうか。</p>

	<p>13 ページ、14 ページ、15 ページにも少しかかっていますけれど、委員会の結論としての方向性は先生方に何回かお集まりいただいて、その大枠としてはご納得いただけるような方向性なのではないかと思います。</p> <p>そのような理解でよろしいですかね。</p> <p>ただ、先ほども言いましたように付帯事項として残すべき内容としては、アレルギー対応のことをもう少しはっきりと浮き彫りになるように項目立てして記載するであるとか、その他実際もう少し進んでいくと出てくるであろう問題と考えられるようなことは、記述をしっかりと残し、次の段階での話し合いに引き継いでいただくということ、付帯事項として学校現場の心配や不安になるような、特に 1 日の学校経営を進めていくにあたってのスケジュール感のところが大きいですかね、そのところはしっかりと今後対応し、それから実際の給食を進めるときに、そういえばこういうことが、というようなこともたくさん出てくると思いますので、そういった懸念が出てきた時には必ず検討して進めていく、これは最終的にこの委員会で結論付けたものではなくて、ここまで段階で話し合った方向性としての報告書であるという位置づけに見えるような形で事務局に整えていただければよいかと思っています。</p> <p>議題 2 の今後のスケジュールに繋がりますけれども、来月中に検討委員会報告書の内容を確定させ、その内容を受けて教育委員会として実施方針が決まっていくという流れになるということですね。</p> <p>この報告書は、あとどれぐらいで教育委員会の方に上げれば良いのでしょうか。</p>
事務局	11 月いっぱいまとめられれば大丈夫です。
委員長	では、その間は皆さん方のご意見をまだ吸い上げられるのですね。
事務局	はい。ご提案ですが、例えば今日お渡ししているものを踏まえてまず 1 回締め切りを設けたいと思っています。1 週間ぐらいでどうでしょうか。問題ないようでしたら、今日が 10 月 29 日ですので、11 月 5 日いっぱいまでに他にあればというところを示させていただいて、例えばそこから 1 週間ぐらい事務局で整理をした修正案を 11 月 12 日ぐらいを目処にお示しをし、またさらにそこから 1 週間でご意見をいただいて、そこで何もなければまとまりますし、何もなくとももう 1 週間、月末までありますので、そのぐらいのスケジュール感でしたら、余裕も持ったままいけるかと思います。
委員長	そして 11 月中に上げていけるという、そういうスケジュール感ですね。
事務局	はい。では、もう一度確認ですけれども、11 月 5 日までで今日の案についてのご意見は一旦締め切らせていただき、その後事務局の方でまとめまして、11 月 12 日ぐらいを目処に 1 回送らせていただきまして、そこから約 1 週間ぐらいを目処に最後確認いただくという流れでお願いできればと思います。
委員長	わかりました。ありがとうございます。ということですので、今日もいろいろなご意見もお話いただきましたので、それも踏まえて、もう一度確認していただいて、何かプラスアルファするようなことがあれば 11 月 5 日までに事務局の方にメールでご連絡いただければ、それを踏まえての最初の修正案が 11 月 10 日過ぎぐらいに出て、それについてもう 1 週間、訂正が入りましたら訂正していく最終的には 11 月中に教育委員会の方に上げていくという、そういう形になるということですので、そのスケジュール感を頭に入れていただ

	<p>きながら、ご意見をまとめていただきたいところですので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>その先は次第に書いてある通りですよね。</p> <p>事務局から次第の議題2の(2)のところをご説明いただけますか。。</p>
事務局	(2) 今後のスケジュールについての説明
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今後のスケジュールもご説明いただきましたので、これらのスケジュールも含めて何かご質問等ございますか。よろしいでしょうか?</p> <p>では、今日が第4回目になったわけですけれども、藤沢市の中学校給食検討委員会は終了になります。</p> <p>本当に積極的に皆さんが出しゃいなかったので、予定の回数でここまでたどり着けたところです。本当に感謝しております。</p> <p>私はここにいて、皆様のご意見を少しまとめていっただけで、ここまでたどり着けたというような気がしていて、この8名のメンバーの力で半年のまとめが出来上がったかなというふうに思います。</p> <p>もう本当にありがとうございました。お忙しい中、お時間ありがとうございました。</p> <p>これをきっかけに、より一層藤沢市の中学校の給食経営、運営管理の部分と食育の部分が発展できるといいなというふうに本当に強く思っております。</p> <p>本当に事務局の方々もありがとうございました。</p> <p>では本日これで、令和7年度の給食検討委員会を終わりにしたいと思います。</p>
全員	<p>ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>